

平成18年度実績評価事務事業進行管理表

事務事業名	上下水道の啓発事業				財務会計上の位置付け	会計	款	項	目	細々目	19予算額(千円)
部等名	水道環境部	課等名	水道業務課		包含する細々目	71	2	1	4		
政策	4 暮らしと生命を守る安全安心で快適なまちづくり										
施策	45 居住基盤の向上										
実施区分	継続	会計	簡易水道	環境調整会議	不要	関連計画 条例等					
		事業期間		年度～	年度						

【Do】(1)この事務事業は次の目的を達成することを目指します。

目的の記述	対象(人や物、自然資源など)	対象の大きさを表す対象指標名と単位	対象指標の数値			
	小・中学生 一般市民	小・中学生	現状又は19年度見込	23年度又は終了年度		23年度以前に終了は終了年度とする
		飯田市の人口(人) (H18.10.1推計人口)	現状又は19年度見込	23年度又は終了年度		
			107844	107000		
	意図(成果は何か、対象をどうかえるか)	成果達成度を表す成果指標名と算定式・単位	成果指標の数値(実績・目標)			
	上下水道に対する理解を深める 上下水道の事業運営や、健全な発展に役立たせる	上下水道週間等作品の応募数	18目標	50	最終目標	
水道週間 59点 下水道いろいろコンクール 15点 (内、水道週間作文の部にて、中学生1点と図)		18実績	74	19目標	50	
上下水道関連行事への参加数、上下水道施設見学数		23目標		23実績		
水道週間に併せ、環境・水道・下水道施設見学者を募り、計48名の参加を得た。また、通年		18目標	20	最終目標		
		18実績	48	19目標	20	
		23目標		23実績		

(2)意図を達成するために以下のことを取り組みます。

手段の記述	事業の全体概要(補足説明)	具体的活動内容(やり方、手順、詳細)	活動量を表す名称・単位	活動量の値
	毎年、全国規模で開催される「水道週間」「下水道の日」を中心に、市民へ上下水道の理解を深めてもらう。 また、年間を通じホームページによる情報の発信を行ない、今後の上下水道事業の発展に資する。	18年度の実績 水道週間(6/1～6/7)・施設見学(6/3)、宅内水回り無料相談(6/3)、協賛作品の募集、広告PR活動、市内都市公園等の蛇口パッキン点検修理 下水道の日(9/10)・作品の募集、広報PR活動 上下水道の概況の発行・市のホームページに掲載し用紙作成部数を減少し紙資源の削減に努めた 納付書、検針票へ水資源の啓発文掲載	施設見学者数、出品作品数	出品作品数 74件 施設見学者 1061人
	19年度計画 水道週間・下水道の日を中心とし、市民への水資源啓発事業の展開及び社会の動向を感知し、日常的業務においても啓発活動を展開。	施設見学者数、出品作品数、イベント参加者等の数		

<金額の単位:千円>		18決算額(見込)	19予算額(当初)
事業費	特定財源		
	国庫支出金		
	県支出金		
	起債		
	その他		
	一般財源	400	400
	事業費計(A)	400	400
人件費	正規職員所要時間	18年度 70	19年度 70
	臨時職員等所要時間	6	6
	人件費計(B)	257	257
	トータルコストA+B	657	657

特定財源内訳や補足事項	市単独事業
-------------	-------

(3)この事業目的の達成は、次の上位(施策や主体の役割)目的の達成に結びつきます。

目的の記述	結果 この事務事業の施策(基本事業)の目的	上位成果指標(施策又はムトス指標)と単位	上位成果指標の数値			
	啓発活動によって、供給側と消費側の上下水道事業に対する信頼関係が維持でき、併せて環境問題への啓発に資する。特に下水道事業では、環境の保全にも通じる部分が多い。		現状値		19実績	
			20実績		21実績	
			22実績		23目標	
			現状値		19実績	
			20実績		21実績	
		22実績		23目標		

この事業を開始したきっかけ	事業を取り巻く状況の変化	事業に対する市民や議会の意見
上下水道の日は、上部組織である日水協・日下水協の事業に呼応した。 通年の上下水道施設見学受け入れは上下水道事業を市民に理解してもらい、各種事業の推進円滑化する。	作品の応募については減少気味。 公道の漏水提供等の情報がある。 小学生・市民の施設見学は随時希望がある。 上下水道関連イベントにより、ライフラインの大切さが市民に理解されている。 最近の情報媒体のホームページの開設ができた。	見学会への参加者からは、ライフラインが如何に大切であるかとの痛感の声がある。

【See】18年度の振り返り

目的妥当性評価	この事業の意図の達成が、結果(上位目的)に結びついていますか？	(評価) <input type="checkbox"/> 結びつく (その理由)	有効性評価	成果をさらに向上させる余地はありますか？	(評価) <input type="checkbox"/> 余地がある (その理由)
	対象の見直し、拡大、縮小の必要性はありますか？	(評価) <input type="checkbox"/> 必要性がない (その理由)		廃止・休止した場合の影響はありますか？	(評価) <input type="checkbox"/> 影響あり (その理由)
	意図の見直しの必要性はありますか？	(評価) <input type="checkbox"/> 必要性がある (その理由)		他に類似事業はありますか。また統合の可能性はありますか(市以外の取組も含む)	(評価) <input type="checkbox"/> 類似事業なし (類似事業名、理由)
	市が関与する必要性はありますか？(市が税金を投入すべき事業ですか)	(評価) <input type="checkbox"/> 必要ある (その理由)		成果を下げずに、事業費や人件費の削減は可能ですか？	(評価) <input type="checkbox"/> 不可能 (その理由)
			公平性評価	受益者は誰ですか？また、負担の是非、程度は妥当ですか？	(評価) <input type="checkbox"/> 妥当である (受益者とその理由)

【Plan】改革改善

今後の事業の方向性	何を、いつまでにどうするのかの改革改善案
<input type="checkbox"/> 終了 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 目的見直し <input type="checkbox"/> 別事業に統合 <input checked="" type="checkbox"/> 事業のやり方改善 <input type="checkbox"/> 現状維持	上下水道事業と環境施設の見学会をタイアップさせ、市民に判りやすい形で実施。多くの参加者を得たことにより、環境への意識啓発が高まった。 以後は内容をより熟したものに発展させたい。
上記の改革改善案を実施する際、想定される課題とその克服方法	より多くの市民への啓発事業を展開していく必要があるため、他市の動向にも注視していきたい。

【補足事項環境側面】

(1) 環境影響評価の必要性判断	(2) 必要性な場合の実施事由
(3) どのような点に配慮し事業に取り組みましたか？	

【指摘事項】

施策マネジメント会議	
施策評価会議	
第5次基本構想基本計画推進委員会	